

2019年社会情報学会（SSI）学会大会報告

櫻井 成一朗*

1. はじめに

社会情報学会（SSI）は、20年以上存在していた二つの日本社会情報学会を統合すべく2012年に誕生した、比較的新しい学会であり、「社会情報」に対して、様々な観点・手法により取り組んでいる学際的な学会である。社会情報学会では、毎年6月に社員総会シンポジウムを開催し、9月に学会大会を開催している。2019年度の学会大会は、中央大学市ヶ谷田町キャンパスにて、大会テーマ「これからの社会を作る情報教育」を掲げ、2019年9月14日（土）と15日（日）の2日間にわたり169名の参加者があり、盛大に開催された（Fig. 1）。



Fig. 1: 会員集会風景（京都大学の吉田純教授よりご提供頂きました。）

2. 基調講演

基調講演は、大会テーマにあわせて、「小学校のプログラミング教育必修化時代における情報教育のあり方」と題して、中央大学国際情報学部岡島裕史教授により行われた。講演に先立ち、中央大学国際情報学部長の平野晋教授より開催校を代表して挨拶がなされた。中央大学国際情報学部は2019年新設の学部であり、新学部の紹介も行われた。学部長挨拶に引き続き行われた基調講演では、2020年度より導入される、小学校のプログラミング教育必修化についての様々な問題とその対策が紹介され、会場の参加者との白熱した質疑応答が行われた（Fig. 2）。



Fig. 2: 基調講演（京都大学の吉田純教授よりご提供頂きました。）

3. シンポジウム

基調講演に引き続き、「社会情報学と情報教育」と題してシンポジウムが開催された。元日本社会情報学会会長の阿部圭一 静岡大学名誉教授、西垣通 東京大学名誉教授、箕捷彦 早稲田大学名誉教授、情報科学国際交流財団理事長をお招きし、コーディネーターとして伊東守 早稲田大学教授に加わって頂いた。本シンポジウムでは、AIリテラシー教育が政府を中心に呼ばれているなかで、また小学校のプログラミング教育が本格的に始まろうと

しているなかで、改めて「情報」の教育とはなにかを考え、いかに社会情報学が情報教育に資するかが活発に議論され、情報教育において社会情報学の果たすべき役割について再確認された。

4. セッション

セッションは17セッションが並列に行われた。セッション名のみ以下に記すが、WSはワークショップであ

*明治学院大学法学部 東京都港区白金台1-2-37

Received: 25 February 2020.



Fig. 3: 一般発表(1) (中央大学の飯尾淳教授よりご提供頂きました.)



Fig. 4: 一般発表(2) (中央大学の飯尾淳教授よりご提供頂きました.)

り、連携発表は関連発表のセッションであり、自由論題は個別の研究発表である (Fig. 3, 4).

1. WS 社会情報学と芸術
2. 連携発表 オープンガバメント・オープンデータ
3. 自由論題 理論
4. 自由論題 社会基盤と情報
5. 自由論題 産業と情報
6. 自由論題 社会と情報 1
7. WS 災害と情報の関係を捉えなおす
8. WS 人工知能技術の発展と社会の変容
9. 自由論題 メディアと情報行動 1
10. 自由論題 コミュニティと情報
11. 自由論題 政治行動と情報
12. 自由論題 教育と情報
13. WS CBPRに基づく地域におけるメディアデザイン
14. WS 民主制下における情報公開・オープンデータと情報セキュリティの交錯に関する研究

15. 自由論題 メディアと情報行動 2
16. 自由論題 数理・データ解析
17. 自由論題 社会と情報 2

自由論題のテーマを見ればわかるように、社会情報学会のテーマは多岐にわたっているが、どのセッションも活発に質疑が行われ、盛会の下本学会大会は閉じられた。学会大会が非常に盛会であったのも、会場を提供して頂いた中央大学国際情報学部のご後援によるものである。中央大学国際情報学部には改めて感謝申し上げたい。

5. 次回学会大会

本年度の学会大会は、2020年9月5日(土)、6日(日)に、同志社大学烏丸キャンパス志高館にて開催される予定である。ご興味をお持ちの方は横幹連合ホームページあるいは当学会ホームページ <http://www.ssi.or.jp/index.html> を参照されたい。